

令和元年度 夢風船 事業実績報告書

1 総括

令和元年度は、平成30年度から引き続き、利用者一人ひとりの生活の充実とそのため活動の充実を更に進めていくことを基本方針とした。具体的には、生活全般を視野に入れた支援、利用者の可能性や能力の伸長、健康管理、安全確保を重点目標と設定し、全般的にはこの目標が事業所に浸透し、組織的に取り組むことが出来たと感じている。職員体制も31年度に比べて充実したうえ、支援方法や内容についてもノウハウが蓄積され、向上が見られる。しかし、安全確保については、行方不明事故が1件、誤薬が1件発生し、大きな反省点となった。いずれも、決められたことを行っていないことが原因で、リスク管理において決定事項の遵守の重要性を再確認したところである。また、課題であった情報共有や職員の業務の標準化については、まだ不十分などころもみられるが、リーダー層の職員による日常業務の中での指導強化や、職員の業務分担を明確にすることで徐々に改善が見られている。

地域や特別支援学校の状況からすると、セーフティネットの役割を果たす生活介護事業所のニーズは今後も高いと推察される。令和元年度は年度途中の退所者もあり、緊急ケースの受入れが出来たが、3月末時点で利用者数は29名で新規の受入れは困難な状態である。地域の実態の把握に努めながら、必要とされる機能について検証を進め、新規事業所の開設を視野に入れ事業を進めていく必要があると考えている。

2 事業概要

- 1) 事業所名 : 夢風船
- 2) 事業種別 : 生活介護
- 3) 所在地 : 東京都小平市小川町2-1931-1
- 4) 経営主体 : 社会福祉法人未来
- 5) 定員 : 20名
- 6) 現員 : 29名 (令和2年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 : 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 : 平成26年11月1日
- 9) 職員 (令和2年3月31日現在)
 - 管理者 1名
 - サービス管理責任者 1名 (管理者兼務 : 常勤換算1.0)
 - 生活支援員 17名 (常勤換算15.8)
 - 看護職 2名 (常勤換算1.8)
 - 嘱託医 1名

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援。
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
- 3) 安心と希望の持てる生活。

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援

- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 利用者への相談支援
- 6) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
 - ① 資源回収作業
 - ② 弁当箱配達回収作業
 - ③ 公園及びマンション清掃受託作業
 - ④ シュレッダー作業
 - ⑤ PC入力作業
 - ⑥ 折鶴製品作成事業
 - ⑦ その他受注作業
- 2) 生活支援事業
 - ① 入浴（毎日）
 - ② 運動プログラム（水泳・ウォーキング）
 - ③ バイタルチェック（朝・入浴前）
 - ④ 音楽活動（月2回）
 - ⑤ 余暇支援事業
- 3) 行事等
 - 4月 ドライブ（野山北公園）
 - 5月 運動会
 - 6月 喫茶（東村山生活実習所）
 - 7月 夏祭り・おやつ作り
 - 8月 川遊び
 - 9月 遠足（羽村動物公園）
 - 10月 さつま芋調理
 - 11月 旅行（山梨県）
 - 12月 忘年会
 - 1月 新年会・成人式
 - 2月 スポーツ（体育館）
 - 3月 喫茶

6 日 課

開所・送迎	8:30～9:30
バイタルチェック	9:00～9:30
朝礼	9:30～9:40
出席確認・連絡事項・活動の確認	
活動	9:40～11:30
作業（資源回収作業／弁当箱配達回収作業／清掃作業／PC作業、室内軽作業）	
運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	
昼食・休憩	11:30～13:30
昼礼	13:30～13:35
連絡事項・活動の確認	
活動	13:35～15:50
作業（資源回収作業／弁当箱回収作業／清掃作業／PC作業、室内軽作業）	

運動プログラム・・・水泳、ウォーキング
入浴

終礼 15:50～16:00
送迎・清掃 16:00～17:10
職員打ち合わせ 17:10～17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

1 F—

(1) 利用者の主体性の向上に向けた活動

朝礼等の司会の他、利用者が参加する場面を新たに設ける。(行事の企画、日々の活動内容の決定、新たな活動や作業の開拓など) また、自ら考える場面を増やし、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

【成果と課題】

朝礼の内容に利用者からの伝達事項を新たに設けたことで、利用者の自発的な発言機会は増えている。当初、発言がみられる利用者は一部であったが、職員の声かけや促しによって、徐々に発言する利用者が増えてきている。また、活動においては、自分の考えや希望を伝え、主体的に取り組む姿勢ができてきているが、行事の企画や日々の活動の内容の決定には至っていない。

2 F—

(1) 利用者の安全確保

利用者個々の特性を理解のうえ、見守りの強化や精神的な安定に向けた環境設定やコミュニケーションにより、離接や他害行動、自傷行為などの防止を徹底する。

【成果と課題】

全ての利用者が利用開始後から環境に慣れるに従って、波はあるものの、他害等の問題行動は減少している。職員との信頼関係やスケジュールや環境への安心感による気持ちの安定化が最大の原因と考えている。また、個々の特性の理解により前兆から予測し、見守り態勢の強化や要因の排除などで事前防止できていることも多い。離接に関しても他害と同様に個々の理解が進むにつれて事前防止の精度が向上しているが、見守り不足から10月に行方不明事故が1件発生したことは大きな反省点となった。

1・2 F 共通—

(1) 利用者の生活全般にわたる支援の充実。

本人や家族の高齢化等による生活基盤が脆弱化しつつある利用者に対して、相談支援の充実、衛生保持、健康管理、日常の軽微な事柄への支援、専門機関への連絡調整、将来の居住環境整備に向けた準備など幅広く柔軟な支援を行う。

【成果と課題】

家族機能の脆弱化がみられる利用者1名をグループホーム入居に結び付けるなど、必要に応じて、生活基盤の安定化に向けた支援を行った。また、緊急時のショートステイ利用の相談や4時以降の延長支援などニーズに対して柔軟な対応を行っている。しかし、通所拒否が見られた利用者1名については、家族との意思疎通が上手く行なえなかったこともあり、8月

に利用終了となった。

(2) 各利用者の可能性の発見と伸長にむけた活動（作業）の開拓と支援

活動や生活場面において、様々な経験を通して能力や興味関心の発見とその伸長を目指すことで、一人ひとりがやりがいをもって生活できるように支援を行う。

【成果と課題】

作業の継続により、流れを理解し、自発的に準備や片づけを行う場面も昨年度に引き続き見られており、仕事に対する意識の向上がみられる反面、1Fグループでは、同じ作業に対する飽きから意識の低下がみられる場面もあった。このような時は、継続することの大切さや仕事の意義を繰り返し説明することで対応してきた。また、8月に新たにポスティング作業を行い、不定期ではあるが新しい作業機会を提供することができたほか、利用者の提案による法人ホームページのリニューアルが作業に結びついたことは大きな成果といえる。12月には特別支援学校の講演会に4名が参加し、後輩たちに自らの経験やそれに基づくアドバイスを語る機会があった。このことは自らを振り返り、また後進のためにできることについて考える良い機会となり、貴重な経験となったと感じている。新たな経験により成長するとともに、作業や活動の継続により、仲間やルールを意識した行動を取れる利用者も増えてきており、帰属意識の醸成が成長につながることを感じる。

(3) 健康管理の充実

一人ひとりの健康管理や衛生保持、また身体機能の維持向上を丁寧に行うとともに、疾病、けが等への迅速な対応を行う。

【成果と課題】

毎日のバイタルチェック、入浴時の身体チェックによる健康管理や身体機能維持のためのリハビリは継続して行っている。利用者数の増加から、一人当たりのプールでの運動機会は減ることとなったが、必要な人にはウォーキングや腹筋運動等を継続的に実施し、日々の体重やバイタル測定結果はグラフ化し、各利用者に配布している。食事量との関係もあるが、肥満傾向のある利用者5名の内、体重減少の効果が見られたのは1名であった。11月から看護職の体制を2名にし、一人ひとりの健康管理がより丁寧に行えるようになったが、1月に利用者、職員合わせて8名がインフルエンザに感染し、感染防止対策が不十分であったことが反省点となった。

2) 人材育成

- (1) 副施設長 ①事業全般の把握と判断力の向上 ②職員行動観察による適性や能力の把握とその活用のための手法の獲得 ③地域の状況把握とネットワーク強化
④指定変更届出、補助金申請等の書類作成技術向上

【成果と課題】

- ① 事業全般の把握は概ね出来ているが、それに基づく経営的な判断については多角的な視点が不足している。又、適切な報告等に関する技術の向上が必要である。
- ② 職員との意思疎通は積極的に行っているが、行動観察により適性を把握し業務を分担していくこと、また、丁寧な指導やその効果の検証という点では、まだ不十分である。
- ③ 関係機関と積極的に連絡を取り、利用者の支援の為にネットワークを作っていく姿勢がみられる。信頼関係も徐々に作られている。
- ④ 行政手続きについては理解が進み書類の作成能力も向上しているが、細部のチェックの

不十分さが課題である。

習得) 日中活動系サービス推進費

未習得) 事業所指定や介護給付費等の各種変更届出、共同募金B配分の手続き 等

(2)生活支援員 ①リーダー職及びその候補者の育成 ②相談支援のスキル向上 ③業務標準化の実施 ④職員間の連携強化(より良い支援の為の協力関係・相互干渉・情報共有・意見交換等) ⑤介護福祉士などの資格取得や強度行動障害支援者養成講座受講などにより専門性の向上を図る。

【成果と課題】

- ① リーダー職については全般的に統率力の向上がみられる。候補者については自発性や気づきにおいてまだ不十分である。
- ② 全般的に利用者家族との信頼性の構築が進み、相談を受ける関係ができています。課題の抽出はできるが、解決手法の提示にはまだ知識や行動力などの向上が必要である。
- ③ 新規入職者に対する経験のある職員からの実践を通じての指導は丁寧に行っている。支援技術についての標準化は進みつつあるが、業務全般に対する意識(環境美化・整理整頓・業務改善への気づき・等)については職員によって大きな差が見られる。
- ④ 年度当初コミュニケーション不足の場面の多々あったが、徐々に改善してきている。
- ⑤ 強度行動障害支援者養成研修を2名、人権研修を1名が受講し、研修内容は会議にて他の職員と共有を図った。

(3) 出納職員候補の育成

【成果と課題】

出納業務の補助を行うことで、2名の職員が出納に関する知識を習得した。また、内1名については計算書類の把握、月次試算報告書の作成も行えるようになったことで、9月に出納職員に任命し、出納職員を2名体制にした。

3) 経営管理

(1) 介護給付費の安定確保

- ① 1日平均利用者22人(28人在籍利用率78.5%)を目標とし、利用者の安定通所を図る。(30年度実績23.36人—31年2月末現在。30年2月に1名退所に伴い、利用実績減の見込)32年度に1日平均利用者23人を目標とし、新規利用者1名の受入れ準備を進める。
(具体的方策)・送迎場所や時間など柔軟な対応を行う。
・健康状態の確認など家庭やグループホームとの連絡調整を密に行う。
- ② 介護福祉士などの資格取得や加算対象の講座受講を推奨し、給付費の加算確保に努める。

【成果と課題】

- ① 4月と8月に新規利用者が各1名、8月に利用終了者が1名あり、年度末で昨年度末より1名増の在籍29名、1日平均利用者数23.71名と目標を上回った。実績の伸び以外に特定処遇改善加算や②で述べる重度障害者支援加算の取得があり、介護給付費収入は約1億500万円となり、30年度と比較して1,140万円増額となった。3月はコロナウィルス流行の影響があり、計画より30万円程度の減収となった。
- ② 強度行動障害者支援者養成基礎研修を2名が受講し、12月より重度障害者支援加算を取得した。令和2年度以降、年間450万円程度の増収となる見込みである。(令和元年度は年度途中の取得であったが、初期加算算定のため550万円程度の増収)

(2) 月次試算による状況分析

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。緊急的支出に対しては、充当資金の調達のため計画の優先順位を設定する。

【成果と課題】

月次試算に基づく分析表を変更し、経営状態の把握が容易になった。緊急的な支出も発生せず、計画的な予算執行が行えた。

(3) 節電等による経費削減

水道光熱費や消耗品など、活動に影響が出ない範囲で節約意識を共有し、経費削減に努める。

【成果と課題】

節電意識は徐々に改善しているもの、エアコンや灯りの消し忘れはまだ見られる。ゴミの有料化に伴い、ゴミの削減に対する意識は少しずつ向上している。

8 その他の成果と課題

- 1) 地域の他の日中活動系事業所と連携を図り、療養介護施設入居者1名の日中活動充実のため、活動の場を提供した。月1回、体験実習として受け入れ、作業やその他の活動へ参加できるよう支援を行った。他の2事業所も各々月1回受け入れを行うことで、当該入居者に対して月3度の外出の機会を設けることができた。
- 2) 地域で在宅生活であった利用者の1名を新規に受け入れ、地域のセーフティネットとして機能させた他、入所施設利用者1名を新規に受け入れ、入所施設利用者の日中活動の充実を図った。
- 3) 毎日のミーティングで利用者の状況や支援計画の実施状況について丁寧に情報共有を行ったことで、グループの枠を超えて全職員が利用者の状況を知ることができ、支援方針の統一が図られた。
- 4) 夢の樹みどりと相互に職員を派遣し合うことで、お互いの長所の共有や課題の改善に役立てた（11月から週2日実施）。

9 開所状況

- 1) 開所期間 自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前9時～午後4時
(3) 年間延開所日数 242日間（前年度 243日）
(4) 平均活動時間 7時間

10 利用状況

- 1) 利用者延人員 5,738人（前年度 5,651人）
- 2) 1日平均利用人員 23.71人（前年度 23.26人）
- 3) 体験実習者延人員 22人（前年度 21人）
- 4) 1日平均実習人員 0.09人（前年度 0.09人）
- 5) 実習者実人員 4人（前年度 6人）

1 1 利用者状況(令和2年3月31日現在)

1) 年齢

20歳以上30歳未満	16名
30歳以上40歳未満	3名
40歳以上50歳未満	8名
50歳以上60歳未満	2名

2) 障害の状況

愛の手帳1度	1名	(内身障手帳所持	1名)
愛の手帳2度	21名	(内身障手帳所持	3名)
愛の手帳3度	2名	(内身障手帳所持	2名)
愛の手帳4度	2名	(内身障手帳所持	1名)
身体障害者手帳1級	4名	(内愛の手帳所持	2名)
身体障害者手帳2級	5名	(内愛の手帳所持	4名)
身体障害者手帳5級	1名	(内愛の手帳所持	1名)

障害支援区分 平均障害支援区分 5.4 (前年度 5.3)

3) 通所手段 送迎車利用 28名 (内交通機関併用1名・家族送迎併用1名)

4) 居住状況 管内居住 18名 管外居住 11名

5) 性別 男性 23名 女性 6名

1 2 利用者工賃

平均工賃	1人	月額	: 4,709円	日給	: 286円
	(前年度1人)	月額	: 6,121円	日給	: 375円)

1 3 余暇支援実習状況

1) 参加者 実24名 延べ371人

2) 延実施回数: 160回

月別実施状況	実施月	実施回数	延参加人数
	4月	: 15回	40人
	5月	: 11回	27人
	6月	: 14回	33人
	7月	: 15回	31人
	8月	: 12回	23人
	9月	: 14回	35人
	10月	: 17回	40人
	11月	: 12回	33人
	12月	: 14回	29人
	1月	: 12回	28人
	2月	: 11回	27人
	3月	: 13回	25人
	合計	160回	371人

内容別実施及び参加状況	内容	実施回数	延参加人数
	カラオケ	22回	61人

入浴	37回	68人
散歩	3回	6人
ドライブ	25回	56人
ボウリング	22回	86人
調理	13回	28人
外食	13回	18人
ゲームセンター	7回	17人
散髪	6回	18人
動画鑑賞	1回	1人
プール	7回	8人
食事	4回	4人
合計	160回	371人

1.4 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.5 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウィルス感染拡大防止のため中止とした。